

[座談会]みんなで語ろう！屋久島の自然・観光・島づくり 配布資料  
 2006年9月23日(祝)19:30～21:30 屋久町総合センター大会議室  
 2006年9月24日(日)19:30～21:30 屋久島離島開発総合センター  
 柴崎茂光(岩手大学農学部)

[情報提供] 世界遺産に登録されれば、自然や暮らしは守られるのか？

1.はじめに

屋久島の山岳地域が世界遺産に登録されてから、12年が過ぎました。この間、屋久島の自然環境・暮らしはどのように変わってきたのでしょうか？

まず、2002年3月から2005年9月にかけてのべ63名の島民の方々・公的組織に実施した聞き取り調査や、文献資料を参考にして、観光利用・管理体系(システム)の現状を紹介します。また、一般島民の方々が世界遺産に対してどのように認識しているかについて、アンケート調査を実施しましたので、その結果(有効回答数368名)も報告します。最後に、他の観光地の事例についても紹介します。

2.観光利用の状況

(1)増加する観光客数

図1は、年間入込数・宿泊施設数の変化を表しています。入込数には島民の利用、帰省客や仕事客などが含まれていますが、観光客数のおよその動きを読み取ることができます。

1989年のトッピーの就航をきっかけに、入込数は増加を始めました。2002年に入込数は28万人を超え、このうちの65%～69%にあたる、19～21万人が観光客と推定されています。またこうした観光客の増加を受けて、島内の宿泊施設も100軒を超えています。

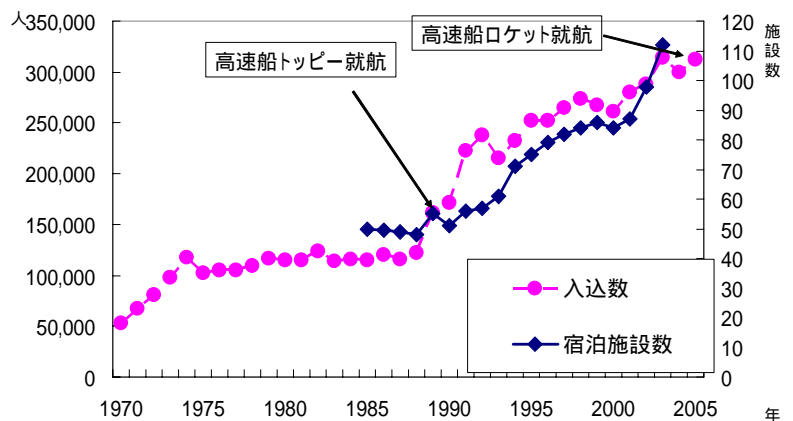


図1 屋久島年間入込数・宿泊施設数に関する経年変化  
 資料:入込数は種子屋久観光連絡協議会資料、  
 宿泊施設数は離島統計年報

推定された年間の観光客数 19 - 21万人(2002年)

(2)大衆観光地化が進む島

近年、旅行代理店が企画するパッケージツアーを利用して訪問する特に関東からの観光客が増加しています。全国区になり、大衆向けの観光地になってきたわけです。

表1は、観光客がこういった観光地を訪問しているか、また1997年と2002年での観光客数の変化を表しています。これをみると、山岳地域と海岸地域(いなか浜)に利用が集中している一方で、里地には客が減っている場所が存在していることが読み取れます。

表1 主要な観光地別の年間訪問者数および経年変化(夏期のみ)

地域	観光地	年間訪問数(2002年)	夏期の経年変化(1997年8月/2002年8月)		変化率(2002年8月/1997年8月)
山岳部	ヤクスギランド	12.0-12.6	1.40	1.48	106%
	白谷雲水峡	6.6-8.0	0.84	1.36	163%
	縄文杉	4.7-6.3	0.80	0.96	121%
	西部林道	3.1-3.8	0.38	0.68	178%
里地	登山者	6.2-8.0	データなし		データなし
	千尋の滝	13.3-13.5	1.41	1.56	110%
	大川の滝	7.5-8.7	1.42	1.25	88%
	志戸子	7.3-7.4	0.80	0.68	85%
海岸	ガジュマル園	4.4-4.7	0.58	0.62	106%
	いなか浜	3.1-4.0	0.61	0.75	123%
	一湊浜	1.4-1.7	0.47	0.54	116%
全体	19.0-21.4	2.41	2.51	104%	

単位:万人

### 3. 管理の状況 - 遺産登録前と後の比較

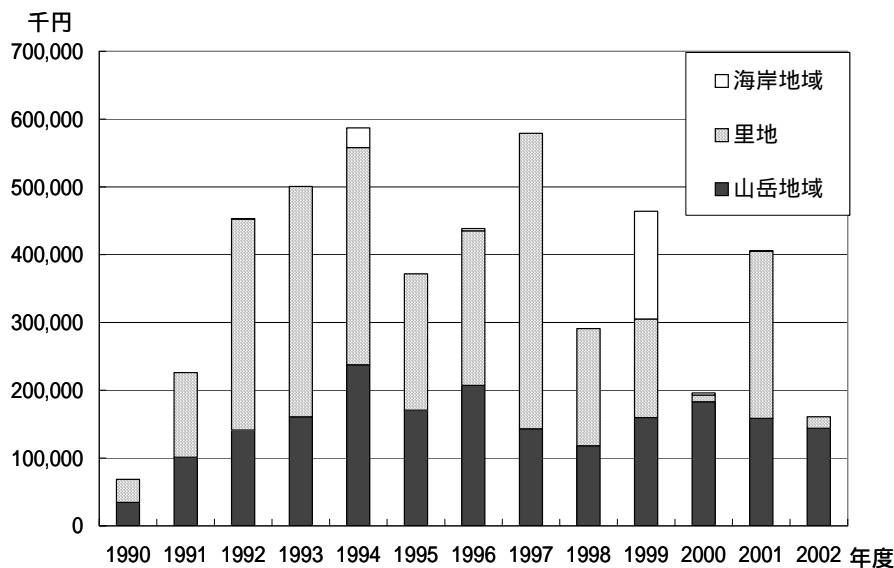


図2 屋久島全体における施設整備事業費の経年変化

#### (1)進む施設整備

世界遺産に登録されてから、屋久島では山岳地域と里地を中心に施設の整備が進みました(図2)。

具体的には、木道・デッキの設置(山岳地域)、公園・トイレの建設(里地)などがあげられます。

#### (2)増加する維持管理費

様々な施設が整備された結果、施設整備後の維持管理するための費用が大幅に増大しました。2002年における屋久島全体での維持管理費は1.37億円でしたが、これは10年と比べると、6.4倍増加しています。施設整備が進んだ山岳地域では11倍弱にも達しています。

#### (3)様々な管理主体の誕生、複雑化する管理体系

表2 1993年度から2002年度までに誕生した管理主体

管理主体名 (一部事業名)	事務局 (2002年度時点)	設立 年度	山岳 地域	里地	海岸 地域	活動内容
屋久島環境文化財団	同左	1993				環境文化村センター、環境文化村研修センターでの啓蒙活動
ヤクスギランドを美しくする会	屋久町	1993				ヤクスギランドでの協力金収受業務・林内清掃業務、森泉での販売業務・トイレ清掃業務
観光パトロール員	上屋久町	1994				上屋久町町内の景観地及び観光施設等の監視
サブレンジャー	環境省屋久島自然保護官事務所	1994				夏期における島外在住ボランティアによる国立公園内の美化清掃・監視
屋久島森林環境保全センター	同左	1995				国有林内における治山事業(観光に関連する事業としては、自然休養林内や縄文杉の施設整備)
大自然緑の会	上屋久町	1996				白谷雲水峡での協力金収受業務・林内清掃・トイレ清掃等
パークボランティア 永田区ウミガメ連絡協議会	環境省屋久島自然保護官事務所 永田区	1996				国立公園内の美化清掃、公園施設の調査点検 いなか浜での協力金収受業務、観察会
正式名称なし(志戸子ガジュマル園での入園料制度)	上屋久町	2002				志戸子ガジュマル園での入園料収納業務
屋久島世界遺産地域連絡会議	環境省九州地区自然保護事務所	1995				世界遺産地域の適正な保全管理を図るための関係機関の連絡調整
屋久島山岳部利用対策協議会	屋久島環境文化財団	1995				山岳地域の自然環境保全対策を検討

この他の大きな変化として、様々な管理を担当する団体が誕生しました(表2)。特に、複数の機関が共同で会議を行い、連絡調整を行うようになりました<sup>1</sup>。

しかし、管理の体系はより複雑になり、屋久島全体を見渡して考えることは一層難しくなったのではないのでしょうか。

<sup>1</sup> 2003年度以降にも、屋久島地区エコツアーリズム推進協議会(2004年)、その下部組織としてのガイド作業部会(2004~2006)、モデルツアー作業部会(2004~2006)、西部地域の保全・利用作業部会(2005~2006)などの連絡調整機関が誕生しています。

#### 4. 島民アンケート調査の結果

##### (1) 登録前後の比較

多くの回答者が、遺産登録後に観光客・ガイド・報道・知名度が増えたと感じています。その一方で、島の自然環境が全般的に悪くなってきていることも大半の回答者が実感しています。経済状況については、遺産登録前後で変化なしという意見が最も多く出ました。

##### (2) 将来的な展望

8割を超える回答者が、自然環境が改善されるべきだと考えています。同様に経済状況についても、将来良くなることを望む声が大勢を占めています。

また観光客数・ガイドの数については、現状程度が望ましいという意見が最も多く出ました。ガイドの数については、減少を望む声が増加を望む声よりも多く寄せられました。

##### (3) 自然を守る仕組みや公的組織の取り組みへの評価

『やや不満・かなり不満』とする意見が、6割弱に達しました。不満を感じる理由ですが、『実際に自然環境が悪化している』という意見が最も多く出されました。また別の質問では、9割以上の回答者が屋久島の自然を守るために、島民が今よりも積極的に関わるべきだと回答していました。

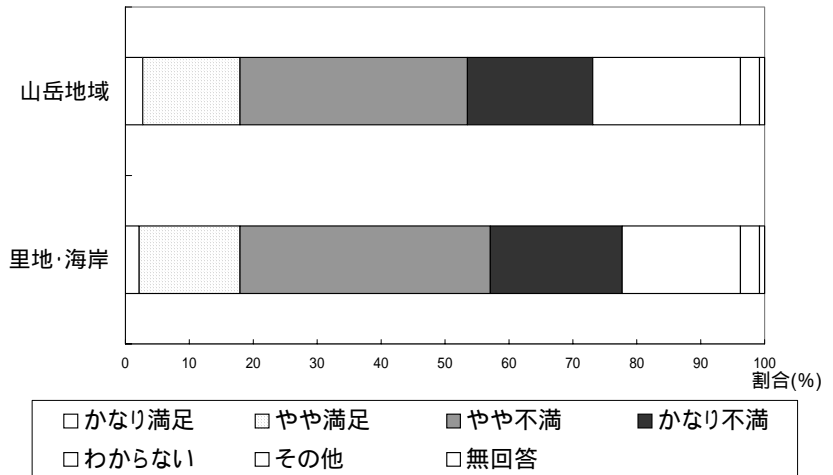


図3 自然環境を守る仕組み(システム)や公的組織の取り組みに対する評価(有効回答数 368)

##### (4) 公的組織の支援方法

『島民からの意見を尊重して欲しい』という意見が、7割弱の割合を占めました。

##### (5) まとめ

島民は環境の悪化に危機感を持っており、この状況を改善するために、自ら積極的に関わる意思があることが、また公的組織に対して島民の意見を尊重して欲しいと望んでいることが明らかになりました。

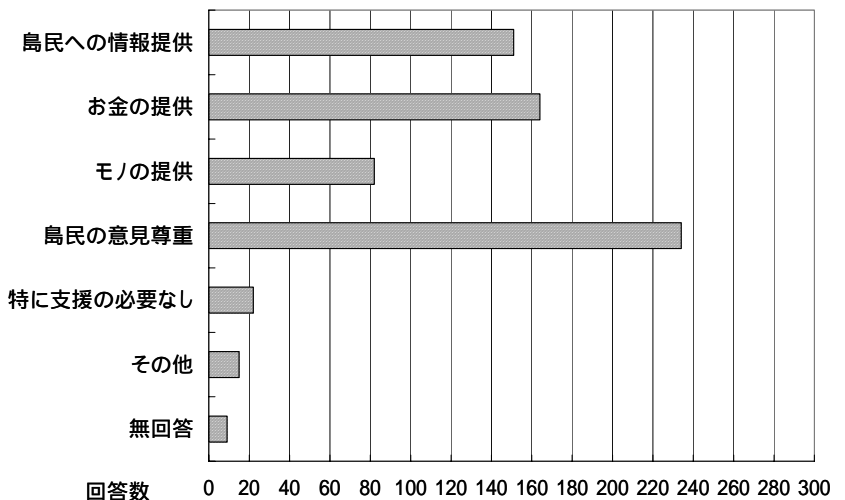


図4 島民が参加するために、公的組織はどのような支援をしたら良いか?(複数回答)

## 5. 観光のあり方について考えてみる

### (1) 観光業が及ぼす経済効果とは？

島内観光業の生産額(売上高)は、59.9～63.6億円(2002年度)と推定されており、この金額は、製造業・建設業の生産額(いずれも約70億円)と肩を並べる数字です。したがって、

2002年/1997年(%)

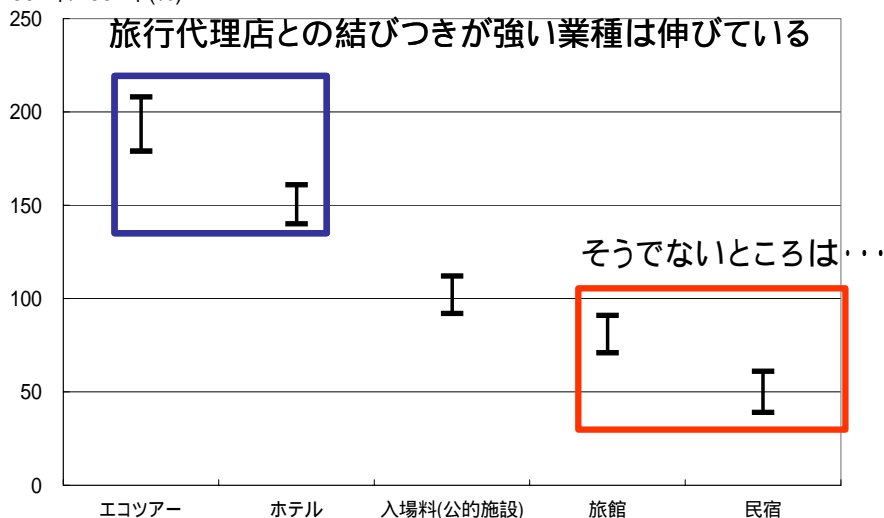


図5 業種ごとによる生産額(売上高)の推移(2002年と1997年の比較)

この10年間で島の基幹産業に観光業がなったことは確かです。

しかし、全ての観光業者が順調に成長しているとは限りません。

2002年と1997年を比較すると、エコツアーやホテルについては、売上高を伸ばしていますが、旅館や民宿の場合には、逆に売上高が落ちていきます。

### (2) 観光業は安心できる産業なのか？

観光業は外部の要因によって影響を受けやすいという性質を持っています。左の図は、

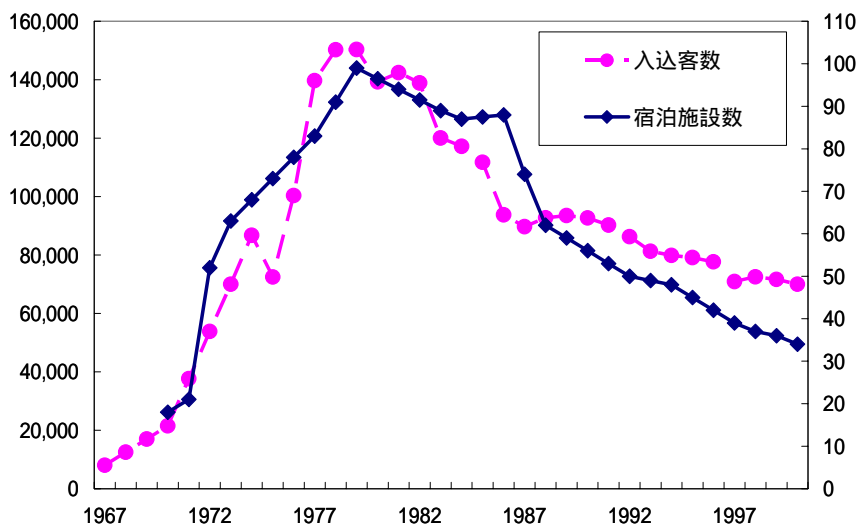


図6 鹿児島県与論島における入込客数・宿泊施設数の推移

資料: 与論町町勢要覧資料編より

鹿児島県与論島の入込客数と宿泊施設数の変化を表していますが、「さいはてブーム」(沖縄返還前～直後)によって多くの観光客が1970年代にやってきましたが、沖縄の観光振興や円高で海外旅行が安くなるにつれ、与論島の観光業は急速に衰退していきました。

### (3) 他の世界自然遺産登録地はどのような状況か？ -白神山地(青森県・秋田県)の場合-

秋田県側は、世界遺産登録地域(核心地域)の立入を原則認めていません。青森県側は、2003年までは入山許可制度でしたが、現在は届出制に変わりました。しかし世界遺産登録地域は登山道整備を進めておらず、多くの観光客が立ち入れる状況ではありません。その代わりに、周辺部にミニ白神と呼ばれる観光地が誕生し、一般観光客はそちらを訪問します。